

お客様
への責任 1

製品の安定供給

デジタル化・ネットワーク化を背景に高まる製品需要に応える
グローバルサプライチェーンの強化に努めています。

安定供給の考え方

製品の安定供給は、製造業にとって、お客様に対する最も基本的な責任の一つです。需要の変化に対応し、製品を安定的に供給するためには、安定的な原材料調達から、生産体制の構築、物流体制の整備、流通ルートの確立などサプライチェーン全体の最適化が重要です。

こうした観点を踏まえて、カシオは以下の4つの方針を掲げ、グローバルサプライチェーンの強化に努めています。

製品安定供給の方針

1. SCM (サプライチェーンマネジメント) の導入による、ITを駆使したサプライチェーン (部品ベンダー～生産工場～物流・販売部門) の合理化
2. 効率化の推進・安定的な原材料調達を実現するための仕入れ先との良好な関係づくり
3. 天災など生産リスクを勘案した分散生産体制の構築 (製造品目ごとに分散生産体制を構築<最低2拠点分散>)
4. 地域需要特性 (人件費、技術力、部品供給力) に応じた最適生産体制の構築 (日本: 高機能製品 / 中国地域: コスト重視製品)

生産供給体制の政策決定

カシオでは、時宜に応じて「生産拠点政策審議会」を開催し、生産拠点についての新設・統廃合などの政策を決定しています。この政策に基づき、半期ごとに生産系グループ会社による「事業計画審議会」を開催し、担当品目の具体的な生産供給体制および生産リードタイムを決定します。

なお、現在のカシオの生産供給体制は、「デバイス事業」はグループ拠点4社と外部委託会社、「エレクトロニクス機器事業」はグループ拠点11社と外部委託会社とで構成されています。

エレクトロニクス機器製品の生産体制

現在、電子辞書の需要は、日本のみならず世界中の市場において、飛躍的に拡大しています。このような状況のもと、カシオは、電子辞書生産の中核拠点である香港カシオ 番禺工場、カシオ電子 (中山) における生産供給体制の強化を推進しています。

具体的には、2004年より「週次引付け生産方式※」を導入して部品調達期間

および出荷までのリードタイム短縮を実現し、需要の変化に柔軟に対応した製品の生産・出荷を実現しました。2005年度中に、電卓・デジタルカメラ・時計など主力製品の製造工程にこの方式の水平展開を図っていきます。

※週次引付け生産方式: 従来、2週に一度であった生産計画立案を毎週計画立案とし、さらに営業買付計画作成から出荷までのリードタイムを5週間に短縮することで、販売状況の変化に柔軟に対応した生産出荷をめざす新生産方式

デバイス製品の生産体制

カシオマイクロニクスは、薄型テレビやパソコン、携帯電話などのデジタル家電市場のさらなる需要拡大を見据えて、半導体関連部品の生産能力を2007年初頭までに現在の2倍以上に引き上げます。

2005年1月には、(株)ルネサステクノロジのグループ会社から、東京都青梅市にある半導体工場と約7,000m²の土地を取得。2005年度中の稼働開始に向けて、生産体制整備を推進しています。また、隣接するカシオマイクロニクス本社工場においても、200mmウエハー用の生産能力強化に向けた設備投資を実施します。さらに、同社山梨工場でも、液晶パネルメーカーに納める駆動用フィルム基板の生産能力を増強します。これら生産体制増強に向けて、今後3年間で土地取得も含め合計で約130億円を投じる予定です。

品目別の生産供給体制



カシオマイクロニクス本社工場 (青梅市)